マルリルの日記

幸運にも上手いこと話してブルーマの門を切り抜けた。シロディールを去る時が来た。

マンモスの臭いを気にしなければ、スカイリムはそう悪くない。きっと研究を忘れられるし、契約も忘れられるだろう。ここの空気はきれいだ。

行商人が問題を持ってきた。遅かれ早かれ理解するだろう。金があってもろくなことにならない。彼らをなだめるのにドワーフのくずが必要だが、どうやったらいいのだ?

マルカルスは有望だったが、頑丈に閉じ込もっていたし、私は泥棒ではない。他の方法を探さなくてはならない。

追いはぎが乗り手を襲い、持ち物を奪われそうになった。ヴィベクでもついていたのか、彼らが野営するドワーフの遺跡を掘り起こすようなんとか説得した。とにかく町よりは安全だ。

この山賊たちはがっしりしているが、誰も私を見つけようとここまで下りてこないだろう。実際いくつか秘宝を見つけたので、買い手を見つけなくてはならない。おそらく山賊の働き手たちへ約束した分に釣り合う、十分な金が手に入るだろう。

マルカルスへは二度と行けない。今のところ遺跡にいる。次はどう動こうか?

マルリルの日記

FormId	skyrim.esm:06BE25
Owning plugin	skyrim.esm
Local FormId	06BE25
Editor ID	dunMzinchaleftMalurilsJournal
Inventory image	(none)
Menu art	HighPolyJournal03
Value (gold)	5
Type	Book or tome
Weight	1
Can be taken	Yes
Teaches	(none)
Inventory description	(none)
Keywords	VendorItemBook
Locations	2
Leveled lists	0
Scripts	0

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.